

この前、久しぶりに米沢方面に向かった。この冬は、思いがけず大雪だった。積雪量が例年とは違った。スタッドレスタイヤを履いているとはいえ、さすがに私の車では、米沢を目指すのは気が引けた。

3月末になり、そろそろいいだろうと、久しぶりに米沢へと車を走らせた。すると、雪が舞ってきた。まあ、大丈夫だろうと車を進めた。米沢盆地に入った。道路の脇や駐車場の端にはまだ雪が残っていた。だが、道路にはなかった。問題はなかった。

久しぶりに、いつものラーメン店に行った。いつも通りの行列だった。これは、ワンクール目では入れないと判断した。開店時間となり、どんどん人が入っていく。案の定、我々の4人前で動きは止まった。待つこと25分、ようやく入ることができた。

食後は、これも久しぶりの「青田風」へと向かった。この店に行くと、非日常を味わうことができる。目の前に広がる眺めがよい。今まで春、夏と見てきた。まさしく、青田風である。秋のいい時期は逃してしまった。冬にも訪れたかったが、雪の量におののき、断念した。

今回は、春というよりは早春である。田んぼなどは何の手入れもされてはいない。風情はないが、それでもずっと眺めていても飽きない。リラックスできる。何も考えずに、ただただのんびりしたい。それが本音である。

ところが、そうはいかない。結局、この園長通信の原稿が思い浮かんでしまう。仕方なく、スマホに記録する。リラックスすればするほど文章が出てきてしまう。いつも小さな葛藤が生まれる。眼前に広がる風景は、一枚の絵のようでもある。特に動きがあるわけではない。さすがは、マスターが探しに探した場所からの風景である。

「青田風」には、少なくとも年に4回は来なくてはいけない。春、夏、秋、冬である。春といつても若葉の5月がいいだろう。田植えから少し時間が経った頃である。そこら中にエネルギーが満ち溢れている。夏は、8月だろうか。すくすくと育った稻が、そよ風に揺れる頃である。秋は、紅葉だろう。錦秋である。色合いが、青から赤へと変わるべきである。そして、冬ならばいつでもいいわけではない。雪が積もった直後がよい。真っ白な銀世界である。一面、白しかない。

そう考えると、早春のこの時期は、キャンバスに色を塗る前の段階となる。趣がないようで、意外とわるくはない。もともとの構図がいいのだろう。今年も、楽しみにしながら「青田風」を訪れることとしたい。そして、何も考えない時間を過ごしてみたい。